

5) 鳥類

大阪市内の河川は、鳥類が生息しにくい環境となっていますが、淀川、大和川そして公園などの水辺各所で、コサギ、カルガモ、ハクセキレイやユリカモメなどの鳥類が生息しています。



■コサギ



■カルガモ

出典：大阪市立自然史博物館ホームページ

緑地の少ない本市において、淀川や大和川の河川敷や公園などは野鳥の生息地、越冬地、繁殖地、渡りの中継地として貴重な

場となっています。なかでも淀川は、比較的多様な自然環境が残されているため、カモ類の越冬地、オオヨシキリの繁殖地そしてツバメの集団ねぐらとなっています。

3 海域

大阪湾は、紀淡海峡と明石海峡及び陸岸により囲まれた周囲約160km、面積約1,450km²、容量41km³の北東から南西方向に約60kmの長軸を持つ楕円形の陥没湾です。

海底の地形は、平均水深28mで東側には水深20mより浅い平坦な海底面が広がり、西側に向かうにつれて深くなり、海峡部では複雑な地形を呈しています。最大水深は、紀淡海峡の197mです。大阪湾の集水域は、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の2府5県であり、集水面積は約11,200km²となっています。

流入河川は、淀川、大和川などであり、淀川はその源を琵琶湖に発し、大阪府北東部に入り、大阪市の北部を流れ大阪湾に注いでいます。大和川は奈良県に発し、生駒山と金剛山の間を流下して大阪府内に入り、本市南部、堺市などを経て大阪湾に注いでいます。

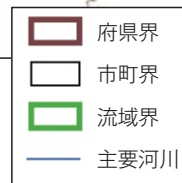
大阪湾奥部に位置する大阪港は、気象・海象条件に恵まれ、近畿圏の経済・産業活動や市民生活を支えるわが国有数の国際貿易港として発展してきました。

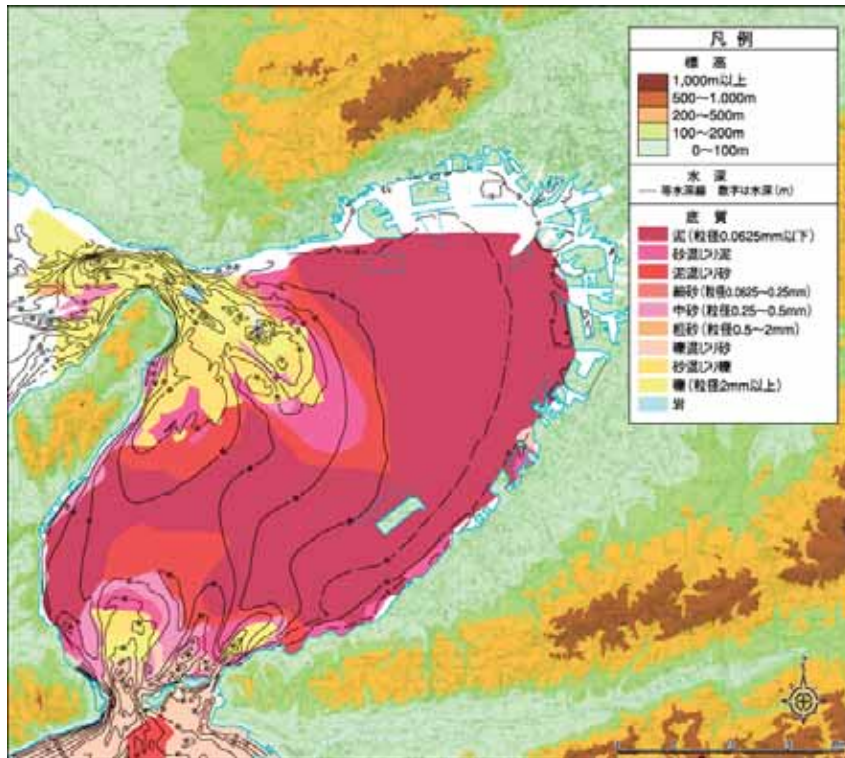
大阪港では、都市・港の発展に資する埋立てや市民の生命・財産を守る防潮堤の補強を進めるなかで、地域の特性に応じた良好な港湾環境の保全・創出に取り組んでいます。



■大阪湾とその流域

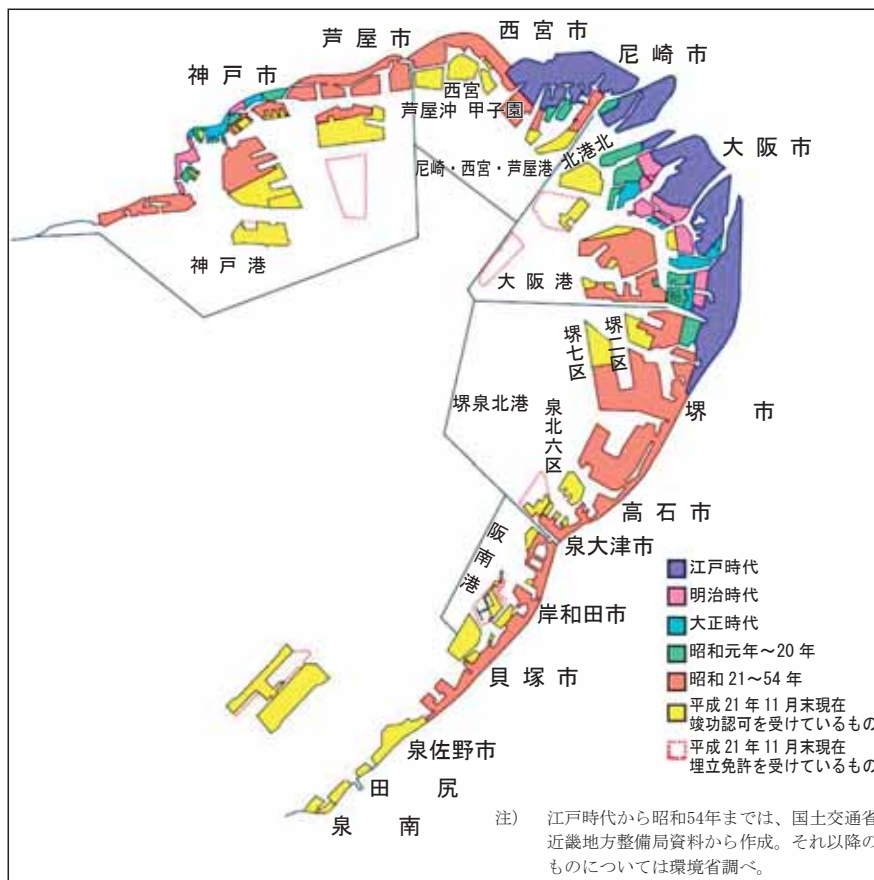
出典：平成19年度 大阪湾流域別下水道整備総合計画基本方針概要版 (近畿地方整備局) より作成





■大阪湾の概要（流域地形・湾内水深・底質）

出典：大阪湾環境データベース（近畿地方整備局）



■大阪湾奥部における埋立状況

出典：平成21年度 瀬戸内海の水環境保全資料集（社団法人瀬戸内海環境保全協会）より作成

(1) 流れ

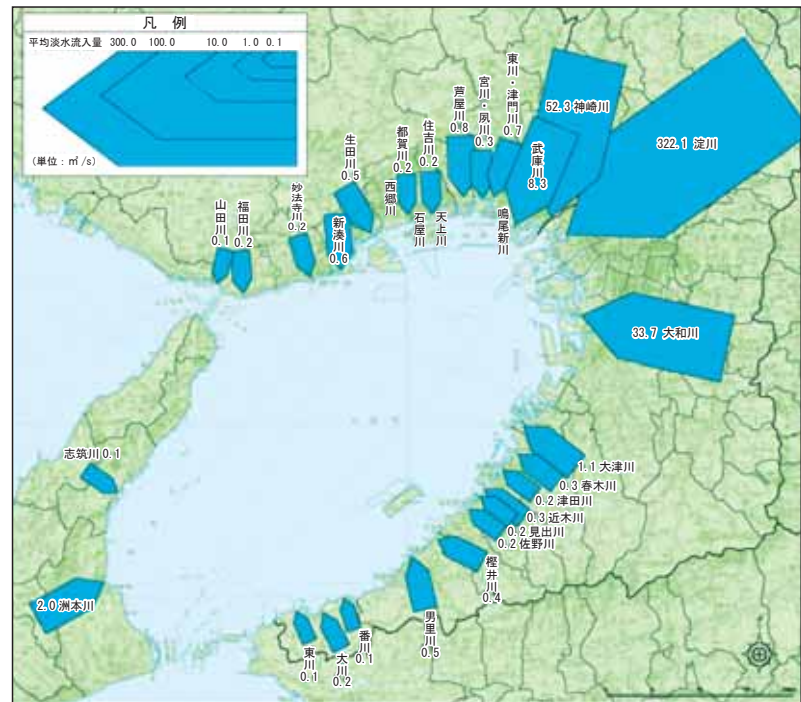
大阪湾では、上げ潮時には紀淡海峡から紀伊水道の海水が流入し、湾内に流入した海水は主として湾西部の水深30m以深の海域を北上し、明石海峡を通過して播磨灘に流出します。一方、下げ潮時には上げ潮時とほぼ逆の向きの流れとなって、大阪湾の海水は紀伊水道に流出します。流速は、明石海峡で最も速く、上げ潮・下げ潮とも最大で毎秒約2m以上となります。

湾内には恒流*が存在しており、湾西部には「沖ノ瀬」（淡路島の北東沖の砂の丘）を中心とする強い時計回りの循環流である沖ノ瀬環流が、湾東部には時計回りの環流である西宮沖環流や恒流帯である東岸恒流帯などと呼ばれるものがあり、淀川、大和川などから流入した河川水は、海水と混じりながら、これらの流れによって大阪湾全体に拡がります。しかし、大阪湾奥部では、流れが停滞しやすくなっており、水質・底質の悪化要因の一つとなっています。



■大阪湾の流れ（恒流）

出典：大阪湾環境データベース（近畿地方整備局）より作成
元図：藤原建紀ら、「大阪湾の恒流と潮流・渦」（1989年海岸工学論文集36巻）



■大阪湾に流入する河川流量
（平成10～12年・6～8月）

出典：大阪湾環境データベース（近畿地方整備局）より作成

*の付いている語句は、巻末資料で解説を記載しています。